

**「子どもたちの発見や気づきに寄り添い、理解を深めよう」****～魅力ある保育を目指して～**

○発表者名 社会福祉法人あすなろ会 久松保育園 副主任保育士 岩見 幸

**1. 問題提起**

本園のめざす子ども像として、「やさしく・たくましく・感性豊かな子」と掲げ、そのような子どもに成長してほしいと願いながら、日々の保育に取り組んでいる。しかし、この研究に取り組み始めた令和2年の子どもたちの実態は、「自分の思いを一方的に相手にぶつけてしまう」「自信が持てず、すぐに諦めてしまい、遊びが継続しない。」といった姿が見られた。そこで、子どもと大人の心の距離、子ども同士の心の距離が近づくよう、表面的には見えない子どもの思いや感情に寄り添い、共感していく必要があるのではないかと改めて感じた。また、子どもは大人との触れ合いを通して、温かさや安心感を得ながら愛着関係を築き、安心できる大人に見守ってもらうことにより、いきいきと自己発揮したり、友だちとの関りも深めたりしていくことができるのだと思う。その為にも、これまで以上に、子どもたちが生活や遊びに好奇心や探求心を持ち、“やってみよう” “もっとしたい”と感じながら、自信をもって自ら意欲的に取り組んだり、互いに自分の考えを伝えあいながら遊ぼうとしたりする、「主体的に遊ぶ子ども」を目指して保育をしていきたいと考えた。

**2. 目的**

「主体的に遊ぶ子ども」を目指して保育する為には、子どもの思いや考えなどの心情を読み取る力を養うことや、子どもたちの興味関心を引き出したり寄り添ったりしながら保育を行う事ができるよう、保育者一人一人が保育のスキルを身に付けていくことを目的とした。

**3. 方法**

- ① 園内研究会の在り方を見直し、積極的に園内研究会に参加し、子どもの育ちや内面の思いを読み取る力を養い、理解を深めていく。
- ② 保育ドキュメンテーションの活用に向け、保育者を対象にアンケート調査を行い、その結果を踏まえ、今後の取り組み方について検討していく。そして、保育ドキュメンテーションを活用し、より充実した保育をしていく。

**4. 成果・課題****【成果】**

園内研究会を通して、保育者同士が何でも気さくに語り合い、皆が同じ思いで保育に向かうことができたことは、保育の質を高める大切な第一歩となった。他の保育者から見た子どもの成長や捉え方等、自分には無かった新しい視点を得られたり、互いの保育の良さを認め合うことで保育に自信が持てたりし、より子ども理解を深めていくことができた。

また、子どもの心情を読み取る力を養うことで、子どもたちの発達段階を理解し、興味関心により添った保育をすることや、自分の保育を振り返り、見直しを持った保育の実践を行うことができた。

**【課題】**

子どもたちの成長に必要な、遊びや環境構成を工夫していくことの大切さに改めて気づいた。環境構成が整っていることは、子どもが自ら目的に向かって考え、試行錯誤しながら夢中になって遊ぶ「主体的な遊び」へと繋がっていくと思う。今後更に、子どもに寄り添い、保育のね

## 児童福祉分野

らいに対する保育者の意図を持った環境構成をしていきたい。

今後も一人一人が保育に対する向上心を持ち、自分の保育をさらに追求し、保育者自身が“保育が楽しい”“こんな保育を取り入れてみたい”“ドキュメンテーションで皆に伝えたい”と思えるような、保育者と子どもの“心が動く保育”を目指していきたい。

### 参考文献

- ・大豆生田啓友・おおえだけいこ（2010）『日本版保育ドキュメンテーションのすすめ』小学館
- ・大豆生田啓友・高嶋景子・三谷大紀（2020）『「語り合い」で保育が変わる 子ども主体の保育をデザインする研修事例集』学研教育みらい